

# イエスは「おはよう」と言われた

マタイ 28 : 1 - 10



司祭 ヨハネ 井田 泉

2014年4月20日

復活日

奈良基督教会にて

今日、復活日の聖書日課には三人のマリアが出て来ました。日曜日の朝早く、イエスの墓に行った二人のマリア——マグダラのマリアともうひとりのマリア。

さらにもうひとりのマリアがその前に登場していました。旧約聖書、出エジプト記第 15 章 20 節です。

**「アロンの姉である女預言者ミリアムが小太鼓を手にとると、他の女たちも小太鼓を手を持ち、踊りながら彼女の後に続いた。」**

この「ミリアム」という名前は「マリア」と同じです。ヘブライ語の「ミリアム」が後にギリシア語に入って「マリア (ム)」となったので、マリアとミリアムは同じ名前なのです。それで今日は二人のマリアからさらに 1200 年くらいも昔、紀元前 1200 年頃のマリア、すなわちミリアムに、まず目を注いでみることにします。

紀元前 13 世紀のその時代、エジプトに暮らしていたイスラエルの人々は強制労働に苦しめられていました。さらにエジプトの王ファラオは、「イスラエルの家に男の子が生まれたら一人残らずナイル川に放り込め」という命令を出しました（出エジプト記 1 : 22）。

あるイスラエルの家に男の子が生まれました。その子がかかわいかったので、お母さんは 3 ヶ月の間隠しておきました。しかしもう隠しきれなくなったので、パピルスで編んだ籠を用意して、その男の赤ちゃんを入れて、ナイル川の葦の茂みに置きました。

その赤ちゃんに姉がいました。ミリアムです。まだ 10 歳にも

なっていなかったかもしれません。一緒について行った少女ミリアムは、立ち去ることができず、遠くから弟がどうなることか様子を見つめていました。どんなに心配だったことでしょうか。

そこにファラオの王女が水浴びにやってきました。葦の茂みに籠を見つけ、開いてみると男の赤ちゃんがいて、泣いていました。そのとき、ミリアムは王女のところに行っていました。「この子にお乳を飲ませる女の人を呼んできませんか」。王女が「そうして」と答えたので、ミリアムは赤ちゃんのほんとうのお母さんと呼んできました。その赤ちゃんとはモーセです。

モーセの姉ミリアムは、幼いながら弟モーセの命を助けたのです。

こうしてその子モーセは、実の母に育てられ、やがて大きくなると王女に引き取られて、イスラエルの人でありながらエジプトの王子として成長しました。

モーセはエジプトの王子として成長したけれども、自分がイスラエル人であることを知るようになったので、彼の心はエジプトとイスラエルの間で葛藤して苦しんだと思います。

あるとき、モーセは街を歩いていて、同胞のイスラエルの一人がエジプト人の監督に虐待されているのを見ました。彼は憤りを抑えることができず、エジプト人を殴り殺してしまいました。もうエジプトにいることはできません。ファラオはモーセを殺そうとし、モーセはエジプトを脱出してひとり遠くミディ

アンの地に逃れました。モーセは 40 歳でした。

このように弟を失った姉のミリアムはどうしていたでしょうか。殺人犯として指名手配されたモーセの姉として、ひどい迫害に遭ったかもしれません。行方不明となった弟モーセの身を案じ、悲しんで、ミリアムは毎日祈っていたことでしょう。

それから 40 年が過ぎました。一日も忘れることなく祈って過ごしたミリアムの 40 年。つらい 40 年でした。モーセは戻ってきました。奇跡の再会です。どれほどうれしかったでしょう。ミリアムはモーセの決意を聞かされました。虐待され続けているイスラエルの人々をエジプトから脱出させる、という途方もない計画です。神がそれをモーセに託しておられる。ミリアムは決意してモーセに協力します。

非常な苦勞と戦いの末、ついにモーセはイスラエルの人々を率いてエジプトを脱出し、先祖の土地を目指して出発しました。しかしファラオは軍隊をもって追跡し、背後から襲いかかろうとしました。

前は海、後ろに迫るのはエジプトの軍隊。イスラエルの内部にはモーセをののしる叫びが上がっています。モーセはただ神に向かって叫ぶしかありません。絶体絶命の窮地に立ちました。これが今日の旧約聖書の箇所です。

「モーセが手を海に向かって差し伸べると、主は夜もすがら激しい東風をもって海を押し返されたので、海は乾いた地に変わ

り、水は分かれた。イスラエルの人々は海の中の乾いた所を進んで行き、水は彼らの右と左に壁のようになった。」出エジプト記 14:21

エジプトの軍隊が追いかけて同じ所に入ったそのとき、海の水が逆流してきてエジプトの軍隊を呑み込みました。イスラエルは奇跡的に救われたのです。

ここでかつてモーセの命を救ったミリアムが、80年ぶりに表に現れます。

「アロンの姉である女預言者ミリアムが小太鼓を手にとると、他の女たちも小太鼓を手を持ち、踊りながら彼女の後に続いた。」15:20

「女預言者ミリアム」 聖書に出てくる最初の女預言者がこのミリアムです。なぜ彼女は預言者と呼ばれたのか。それはミリアムが神の言葉を人々に伝え、人々はミリアムの口をとおして確かに神が語られるのを聞いたからです。ミリアムはただ協力者として弟モーセを助けたのではなく、彼女自身が神の声となり、神の手となって行動したのです。

ミリアムはイスラエルの人々の前で小太鼓を手に取り、音頭を取って歌いました。

「主に向かって歌え。主は大いなる威光を現し、馬と乗り手を海に投げ込まれた。」15:21

ミリアムはイスラエルの人々の心を神に向けさせました。モーセを英雄とするのではなく、自分たちの成功を誇るのではなく、エジプトから自分たちを救い出してくださった神に向かって祈り、賛美の歌をうたうように、ミリアムは人々をリードしたのでした。

モーセもアロンもなしえず、ミリアムだけがなしえたことがあります。それは楽器と歌、音楽をもって人々を励ますことです。小太鼓と歌をもって人々を励まし、人々の心を神に向けさせ、人々を神のもとでの一致に導いたのはミリアムでした。

このミリアムから 1200 年後、ミリアムと同じ名を持つ二人のマリアがイエスの墓に行きました。かつてミリアムがモーセに協力して神の救いの奇跡を体験しましたが、イエスを慕い求めイエスに協力した二人のマリアも神の業を経験します。

「天使は婦人たちに言った。『恐れることはない。十字架につけられたイエスを捜しているのだろうが、あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。…急いで行って弟子たちにこう告げなさい。“あの方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。” 確かに、あなたがたに伝えました。』」 マタイ 28:5-7

二人のマリアは、恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って行きました。

するとだれかが行く手に立っていて、二人に声をかけました。

「おはよう！」

イエスが待っておられて、彼女らに呼びかけられました。

「おはよう」と訳されたのはギリシア語の **χαίρετε** 「カイレテ」で一般的なあいさつの言葉なのだそうです。けれども直訳すると「喜べ」という意味です。「喜べ！」

イエスが喜んでおられます。この二人に会えたのがうれしい。マリアさんたち、あなたがたに再会できてうれしい。わたしが生きているのに何を悲しむ必要があるか。わたしが生きているのにどうして無意味なことがあるか。わたしがあなたがたを待っていた。わたしがあなたがたに出会った。一緒に喜んでほしいと思って喜びを持ってきた。「喜べ！」

「婦人たちは近寄り、イエスの足を抱き、その前にひれ伏した。」

28:9

うれしかった。もう絶対に離れない。離さない。このイエスさまに再会できたからには。

しかし二人には今からすることがあります。イエスから託される使命がある。

わたしがあなたがたに与えた喜びを仲間に持って行きなさい。わたしの兄弟姉妹たち、ほかのみんなにもわたしは出会おうとして待っているから、それを知らせに行きなさい。わたしがほ

かの人々にも出会うその仲介役になってほしい。

ミリアムを含めて、三人のマリアに共通していることがあります。

彼女らは、苦しんだ人たちです。何よりも大切な存在を失ってはかりしれない打撃を受けた人たちです。

第2に、決定的に神の救いを、イエスの復活を経験した人たちです。

第3に、救いの出来事を自分にとめおかず、人々の心を神に向けさせ、あるいは人々に神の救いを伝えた人たちです。

二人のマリアを待ち受け、出会われたイエスは、わたしたちを待っていて、わたしたちにも言われます。

「おはよう」

「喜べ」

「わたしは生きている。それを皆に知らせなさい」

主なる神さま、わたしたちにもあなたの救いの業を経験させてください。わたしたちを待っておられ、声をかけてくださる主イエスに出会わせてください。弱った人々、虐げられた人々の味方となってくださるあなたに出会い、あなたの愛と働きを広めるわたしたちにしてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン